

～150周年記念の年～

令和6年度

No.13

令和6年12月24日

本宮日記



盛岡市立本宮小学校

盛岡市本宮 2-25-1

電話 636-0249

校訓 「宝積」 ～人に尽くして見返りを求めない～

本宮小学校の子供たちは今学期も 多くの方々に支え育てて頂きました

巷のニュースでは、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎、溶連菌感染症、新型コロナなどの感染症が猛威を振るい、学級・学年閉鎖が話題になっていますが、本校では流行に至らず、二学期(86日間)の最終日を無事に迎えることができました。

改めて二学期を振り返りますと、本小まつり、PTA早朝学校清掃、校内マラソン大会、高学年の球技大会、5年生林間学校、4年生連合音楽会、1年生保育園との交流、2年生町たんけん、3年生施設にいらっしゃるおじいちゃんおばあちゃん方との交流、150周年を迎えるにあたっての調査・研究、本宮地区の魅力再発見の調査・研究、生活科・総合の全国大会学校公開、スケート教室等子供たちは様々なことに取り組み、挑戦し続けてきました。毎日目にする子供たちの姿は、昨日の姿から一皮も二皮もむけ、成長している姿を目にすることができました。子供たちとあいさつを交わし、様々な出来事を子供たちから教えてもらうことがとても楽しく、幸せな二学期でした。

その子供たちの成長の鍵になっていたのが、地域の方々や保護者のみなさんとの関わりでした。本宮小学校の強み(財産)は学校に関わって下さる多くの方々の存在!ご理解!!お力添えに尽きる!!!そんな二学期でもありました。本紙面をお借りし、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

明日からは、子供たちが楽しみにしている冬休み(12/25～1/14まで21日間)です。夏休みに比べて短いですが、自分がたてためあてを意識した生活を送り、まとめの三学期につながる充実した冬休みにしてほしいものです。

また、冬休みは、家族や親戚と過ごす時間、年末年始ならではの行事など様々な人と関わる機会が増えます。このようなふれあいは、家族の絆を深めるとともに子供たちにとって今の自分を様々な視点から見つめ直したり、将来の自分について考えはじめたりする契機になります。

三学期の始業式に、またひとまわり成長した子供たちに会えることを楽しみにしています。

どうぞ皆様方よいお年をお迎え下さい。



～受賞おめでとうございます～

■芸術体験フェスタ「こども絵画コンクール」

- ・monaka 賞 6年 高橋奏乃さん
- ・入賞 3年 村上遥軌さん

■盛岡市社会福祉作文コンクール

- ・最優秀賞 6年 中村衣吹さん

■私の街に「こんなトラックあったらいいな」 絵画コンクール

- ・最優秀賞 2年 秋山真来奈さん

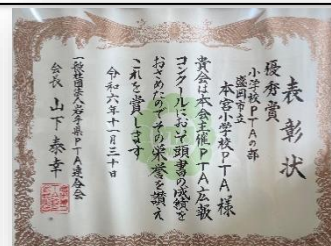
■盛岡市交通安全ポスターコンクール

- ・最優秀賞 1年 岡村 珀さん
- ・最優秀賞 4年 岡村 碧さん

■盛岡市小中学校読書感想文コンクール

- ・優秀賞 1年 秋山留々琶

■11月16日盛岡市PTA連合会年実表彰式
の場において本校PTA会長菊池好様が個人
賞を受賞されました。多年にわたるPTA活動
が評価されたものです。併せて、PTA広報誌
も優秀賞を受賞しました。本校PTA活動のこ
れまでの功績を認めていただいたものです。
誠にありがとうございました。



二学期を振り返って…

二学期頑張ったこと
三学期努力したいこと

四年三組 佐藤 彩幸

私が二学期頑張ったことは、学級委員の仕事と連合音楽会の練習です。学級委員では、学級全体がすばやく行動できるように学級委員二人で協力して呼びかけなどをしてまわりました。前よりも静かにすばやくのびが広がりました。連合音楽会に向けての練習では、のびを開いて歌うことや上手な声の出し方を教えました。本番では、練習の成果が出た、学年が心を一つにきれいな声で発表することの練習を通して、四年生がスツブアップしました。三学期努力したいことは、字を丁寧に書くことです。習字のように書くことと、はね、はらいもきれいに書くこと、意識してやっています。五年生に向けて、さわやかなあいさつをすることや、どんな人にも優しく声をかけられる人になりたいです。



二学期頑張ったこと

二年二組 高橋 ひかる

わたしが二学期にがんばったことは、マラソン大会と国語の「お手紙」の学しゅうです。

マラソン大会では、どんなときでもあきらめない。一位を目指す。フォームなどに気を付けました。れんしゅうからがんばっていたので、じゅんいもタイムもうれしいかったです。おわるのができてよかったです。

お手紙の学しゅうでは、がまくんとかえるくんの気持ちを考えたり、『なぜ』『どうして』の二つのことばをつかったりしてべんきょうをすすめました。二人の気もちをじっくり考えました。

三学期がんばりたいことは、三年生にむけて、二年生の学しゅうのふくしゅうや生活のふりかえりをして三年生でこまらないうにすることです。



気になる
ニュース

『脳を傷つけるマルトリートメント』

県立生涯学習推進センターマガジンニュースより抜粋



岩手県立生涯学習推進センターで行われた「子育て・家庭教育相談セミナーⅡ」で講演いただいた福井大学子どものこころの発達研究センターの医師であり教授の友田明美先生から衝撃的な話を伺いました。「子どもへの避けたいかかわり＝マルトリートメント」により子どもの脳が傷つき、また精神疾患にかかるリスクが生涯3倍に、さらには寿命を20年も縮めてしまうのだそうです。では、「マルトリートメント」（以下マルトリ）とは…。身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、といった児童虐待があてはまります。また、虐待とは言い切れない、**どこの家庭でもおこりうる「大人から子どもに対するよくない関わり＝避けたい子育て」も含まれる**とのことでした。▶例えば、「言うことを聞かないので軽くつねる」、「他の兄弟と比べる」、「長時間スマホを見せておく」などもマルトリのひとつです。▶その中で、「長時間スマホを見せておく」育児について、友田先生によると…▶最近では、乳幼児期の子どもにゲーム機やスマホなどデジタル機器を与えっぱなしで育児をする親、赤ちゃんを見ず、動画を見ながら授乳をする親など避けたい子育てをしている親が多くなってきており、ネグレクトと同様の影響が子どもの脳に現れ、またコミュニケーションの変容もみられる。▶脳は、1歳で大人の70%に成長するといわれ、乳幼児期に脳のほとんどが育つ。また、子どもは生まれてから5歳ころまでに親や養育者との間に強い絆を形成し、これによって得られた安心感や信頼感を足がかりにしながら、周囲から世界へと関心を広げ、認知力や豊かな感情を育てていくという成長過程をたどる。しかし、この大切な時期にスマホを長時間見せっぱなしにすることは、脳を傷つけ、親子の貴重なコミュニケーションの時間をなくし、子どもの愛着形成を阻害してしまう。**脳が健康に育つためには、「十分な栄養・良好な睡眠」と「良い活動・良い経験」が大切であり、子どもの健全な発育には、特定の大人との愛着形成が不可欠**である。とのことでした。▶子どもの愛着形成が阻害された愛着障害では、・集団行動がとれなくなる ・粗暴になる ・他人に対して無関心 ・用心深い ・イライラしやすい ・多動・友達とのトラブルが多い ・人との距離感がたもてない（人見知りがない）などの行動も現れるようです。▶スマホを見ていれば、静かで良い、親自身の時間が邪魔されないなど一見よさそうですが、成長とともに、子ども自身が苦しみ、また親も悩み苦しむことにならないよう子どもとのコミュニケーションを大切にして子育てしていきたいものです。▶友田先生は、傷ついた脳も愛着の再形成で脳活動が回復し、成長の遅れが回復する!とおっしゃっていました。そのためには、「褒める」ことだそうです。また、養育者が「孤立化＝孤育て」にならないようみんなで子育てをしていく「とも育て」も必要ということでした。▶子どもたちの将来が明るいものになるよう、大人みんなで責任をもって育てていきたいものですね。